

(公財) 全国高等学校体育連盟空手道専門部大会申し合わせ事項 (2019 全国総体・沖縄)

(公財)全国高等学校体育連盟空手道専門部

I. 選手の服装と頭髪等

[1] 空手道衣

- 1) 空手道衣は白無地一色とし、落書きやふちどりのあるものは禁止する。また、帯の色は白・茶・黒いずれかとし、ゴムやマジックテープなどを付けることは禁止する。
- 2) 空手道衣の左胸に入れる校名は、次の基準による。
 - ① 一文字の大きさは5cm×5cm～7cm×7cmとする。(縦書で全体の大きさ7cm×15cm程度)
 - ② 字体は丸ゴシック・行書・楷書の範囲とする。
 - ③ 文字の色は黒又は紺又はスクールカラーとする。但し、色を合わせて使うことはできない。
 - ④ 「～高」は必ずしも入れなくてよい。
 - ⑤ 個人名の刺繍を入れる場合は黒色とし、姓(名字)又はフルネームであることが望ましい。(個人名はなくてもよい)
 - ⑥ 指定箇所以外の刺繍は禁止する。
- 3) 空手道衣の左袖上腕部に入れる都道府県名は、次の基準による。
 - ① 一文字の大きさは5cm×5cm～7cm×7cmとする。
 - ② 都・府・県の文字は入れなくてよい。
 - ③ 字体・文字の色については、上記2)の②③⑤に準ずる。
- 4) 各競技では、赤青帯を着用する。(帯は個人または学校で用意をすること。)赤青帯には全空連検定ラベルと高体連指定ラベルの両方を貼っていること。帯への刺繍は一切しないことが望ましいが、全空連大会で認められていることもあるので、入れる場合は、下記の通りとする。

所属名 「〇〇高等学校空手道部」、「〇〇高等学校」、「〇〇県高体連」、
「全国高等学校体育連盟」、「全日本空手道連盟」
この類とし、会派流派名や道場名は不可とする。

もう片方は 名前

なお、テーピングテープ等を帯に巻き、刺繍を隠す行為は認めない。
刺繍の色は、金色又は銀色とする。
- 5) ズボンの空きは、ズボン全長にわたって、ズボンと脚との間(シンガードを付けずに、ズボンを片側に寄せた状態)が8cmから20cmでなければならない。(「気をつけ」の状態を判断する。)

[2] 選手の頭髪等

- 1) 男子はスポーツマンらしい頭髪にし、長くても「まゆげ」にかからず、「耳」が見え、「エリアシ」が見えるように整髪する。
- 2) パーマ、リーゼント、ソリ、ヒゲ、染色、脱色を禁止する。
- 3) 女子は、ヘアピン等の危険物の使用及びリボン・鉢巻きの使用を禁止する。空手道衣の下は白無地のTシャツとする。(但し、ワンポイント校名もしくはワンポイントのロゴ入りは認める)

II. 組手競技では男子5点・女子4点の安全具を必ず着用すること。

- 1) ニューメンホーVI及びVII(全空連検定のもの)
- 2) 拳サポーター赤・青(全空連検定のもの)
- 3) ボディプロテクター(高体連指定またはミズノ製のもの)
- 4) シンガード・インステップガード(高体連指定のもの)
- 5) セーフティカップ(男子のみ)・・・空手道衣の下に着用すること。

※違反者の参加は反則負けとなる。(1分間ルール適用)

※マウスピースを使用してもよい(任意)。ただし、色は白色か透明なものとする。

III. 組手競技・形競技ともにメガネ、コンタクトレンズ(ハード)の使用は禁止とする。但し、コンタクトレンズ(ソフト)の使用は、個人の責任において認める。

IV. 負傷及び再発防止のための包帯、サポーター・テーピングの使用を許可する。但し、次の条件を満たすものであること。

- 1) 攻撃および防御強化のために使用してはならない。
- 2) 相手に危害を及ぼすようなものを中に入れてはならない。
- 3) 装着不備により、競技をしばしば中断させないこと。

- 4) テープの色は、白またはベージュ系の2色のみとする。
- 5) サポーターの色は、白またはベージュ系の2色のみとするが、膝についてはこの限りではない。
- 6) テープとサポーターの同一箇所への兼用は禁止する。
- 7) 清潔な物であること。

[注] あくまでも選手の安全と再発予防のため、軽度の疾病者を対象としたものであり、常識を逸脱するような内容の者及び重傷の出場者を許可するものではない。

※上記に違反した者は当該競技種目のみ反則負けとする。

V. 組手競技

- 1) 申し合わせ事項Ⅱ.において指定された安全具を必ず着用すること。
- 2) 団体競技において、登録されたメンバーの枠の中で、各回戦毎のオーダーの変更はできる。但し、試合毎にオーダー票を提出すること。提出後の変更は認めない。
- 3) 団体競技は、1・2回戦は全員試合を行うが、3回戦以降は勝敗が決まった段階で試合を終了する。
- 4) 団体競技は、規定の過半数の選手（現行は3人）で成立する。エントリーは自由に配置できる。
- 5) 一度棄権した選手は、以降の当該種目のみ出場できない。
- 6) 組手競技に於ける危険回避（事故防止）のための遵守事項。
 - ①メンホーは皮膚の一部であり、メンホーの開口部に手を入れたり、掴んだり、押したり、それに関連する動作は全て禁止でペナルティが課せられる。
 - ②メンホーの装着は仕様に従い、しっかり装着すること。
- 7) 倒した、あるいは倒れた相手に対する蹴り技は認められるが、必要以上の加撃がないように充分注意すること。
- 8) ジュニアカデットルールで実施する。

VI. 形競技

- 1) 個人形・団体形ともに2019年度改定の得点制とする。
- 2) 個人形競技の第1ラウンドは(公財)全日本空手道連盟第1・2指定形とする。第2ラウンド以降は(公財)全日本空手道連盟得意形とし一度使った形は使えない。

※再演武は上位ラウンド進出に関わる時とメダルマッチの時に同点が出た場合、再演武を行う。再演武で使用する形は当該ラウンドで使った形以外の形とする。以前に本戦で使った形でもよい。再演武で使った形で本戦に使われていない形はそれ以降も使える。
- 3) 団体形競技の第1ラウンドと第2ラウンドは(公財)全日本空手道連盟第1・2指定形とし繰り返してもよい。第3ラウンド以降は(公財)全日本空手道連盟得意形とし一度使った形は使えない。

※再演武については個人形競技と同様とする。
※第一指定形・第二指定形及び得意形は空手道競技規定(JKF 2019年度初版)の「付録17:指定形リスト」並びに「付録18:全空連得意形リスト」から選択しなければならない。
- 3) 団体競技は規定の選手数（3人）を満たさないと成立しない。（全国選抜大会）
- 4) 団体競技において登録されたメンバーの枠の中で回戦毎の選手交替は出来る。（全国選抜大会）
- 5) 団体競技において、「よ〜い、はじめ」「なおって」などの発声（合図）は行わない。（全国選抜大会）
- 6) 団体競技の3位決定戦と決勝戦では、形演武の後にその形の分解を行う。（全国選抜大会）

分解の演武中に意識がないように演じるのは不適切である。倒れた後、片膝まで起き上がるか、又は立ち上がっていなければならないので注意してください。
- 7) 団体形分解の禁止事項
 - ① 首へのカニばさみ
 - ② 肩より上に持ち上げる行為
 - ③ 相手を投げ捨てる行為

VII. 引率

- 1) 引率責任者は、団体の場合は校長の認める当該校の職員とする。個人の場合は校長の認める学校の職員とする。
- 2) 引率責任者は選手のすべての行動に対して責任を持つこと。

VIII. 監督

- 1) 監督は（公財）全日本空手道連盟会員登録者であること。
- 2) 監督は審判員を兼ねることはできない。
- 3) 監督はあらかじめ届け出された学校の指導者（学校長が認めた者）とし、原則1名とするが、競技日程の関係で男女あるいは選手が重複して出場し、同時進行になった場合に限り、運用として当該校の校長が認めた顧問・コーチが、その競技のみの臨時の監督を務めることができる。但し、事前に競技委員長に申し出る義務を有する。
- 4) 監督の服装は以下の通りとする。
 - ・個人形は3位決定戦から、団体組手は準決勝から、個人組手は3位決定戦からスーツを着用する。スーツはダークスーツとし、ネクタイは審判員とは異なるものを着用する。女性はスラックスでもスカートでもよく、ネクタイは着用してもしなくてもよい。
 - ・それ以前の試合においてはトラックスーツを着用する。
トラックスーツには学校名を入れることとし、入れる場所、大きさ、字体は問わない。また、華美なトラックスーツは避ける。（スクールカラーは可）
※ハーフパンツのトラックスーツは禁止する。
 - ・トラックスーツの上着は華美でない半袖ポロシャツでも構わない。（インターハイのみ）
※半袖ポロシャツへの学校名記名は問わない。
 - ・シューズの底については、体育館フロアを傷つけないゴム製や布製のものとする。
※上記以外の服装の場合、監督には付けない。

IX. 健康管理

- 1) 競技中の疾病・障害等の応急処置は主催者側で行うが、その後の責任は負わない。
（傷害保険の加入・大会医師の常駐）
- 2) 故障者については、監督の責任で出場を取り止めること。
- 3) 参加選手・役員は、健康保険証を持参すること。

X. その他の注意事項

- 1) 競技中に競技者からのタイムの要求はできない。全て主審または副審のアピールによる。
- 2) 競技者が定位置に戻るときは速やかに戻る。だらしない態度や行動はしないこと。
- 3) 競技者が定位置に立ったときは、完全に静止し主審の合図を待つこと。
- 4) 競技者がポイントを取ったとき、または勝ったときのオーバーアクションやガッツポーズを禁止する。（監督や待機選手も同様とする。）
- 5) 競技者が道衣の上に衣類を着用する場合はだらしない着方をせず、競技開始時や終了時には脱ぐこと。
- 6) 競技者が試合コート内で円陣を作り、氣勢を上げる等の示威行為を禁止する。
- 7) 競技者は、定位置のみならず試合コートへの出入り時にも「礼」をすること。

XI. 審判員心得及び確認事項

- 1) 公平・無私・正確を旨とすること。
- 2) 主審は競技中の主導権を持ち、スムーズな進行に心がける。
- 3) 監督及び選手のマナーの指導も行う。（会場内の過度な応援に対する指導も含む。）